

feature vol.11

石川澄

profile

唯一、真剣に取り組めたこと、それがバドミントンだった。



――：シングルスで活躍されてきた石川さんにとって、どんな現役時代だったと思いますか？病氣や持病で苦しんだ時期もあったとお聞きしていますが...

石川：日本ユニシスに入って1年目、プレッシャーもなく、右も左もわからない時に、いきなり社会人大会（2000年）で決勝まで勝ち抜き、トップクラスに躍り出たのですが、それも束の間、肺気胸（肺に穴があいて空気が胸腔に流入した状態）を患って入院することになったんです。ドーンと昇りつめて、ドーンと突き落とされた感じでしたね。しかも、高校時代から不整脈もあったので、それもまとめて手術してしまおうということになった。ところが、手術の時に麻酔の針を逆の肺に刺してしまうというアクシデントがあり、翌年はバドミントンどころではなくなってしまったんです。3ヶ月間の入院を経て、会社には復帰できましたが、本格的にコートに戻れたのは1年後だったでしょうか...。ランキングも16位から40位まで下がり、組み合わせの厳しいところから勝ち上がっていかねばならないという苦渋も舐めた。ただ、病氣をしたことによっていろんなことを学びましたね。自分は本当にバドミントンが好きなんだということを再認識できたし、職場の方々やチームのみんなにどれだけバックアップしていただいているかも身に沁みてわかったし。



2002年社会人選手権

――：病氣を克服したあと、競技の方はいかがでしたか？体力的なことはもとより、試合の感覚を取り戻すのはなかなか大変だと思いますが？

石川：確かに試合の感覚がなかなか戻らず、成績の上がらない時期が続きましたね。ただ、このままでは絶対に終われないという気持ちがあったので、復調をめざして必死に努力しました。その結果、2005年のポルトガル国際シングルスでベスト8に入ることができた。その後、社会人大会で同僚の中西選手とベスト4を争って負けたのですが、彼は強い選手だったし、練習も納得できるくらい自分を追い込んだので、この試合が終わったあと、すっきりと引退を決意しました。たまたま職場の上司から「石川君、仕事の方はどうかね？」というお話をタイミングよくいただいていたこともありましたが、必要とされている時にシフトするのが自分にとって職場にとってもプラスになると思いました。

――：石川さんといえば応援団長、チームを盛り上げるムードメーカーとしても目立っていましたが、もともとそういう性格なのですか？それとも意識的に？

石川：団体戦はメンタルの部分部分が左右するので、ベンチが沈んでいたり、心配そうな顔していたりしたら余計プレーがダメになる。だから意識的にチームを盛り上げて、明るい雰囲気づくりを心がけていました。ちょっと、はたから見ると、ふざけている感じがしたかもしれませんが、まあ、もともとのキャラクターもあると思います。昔、家の都合で転校ばかりしていたのですが、行く先々で「昔からここにいたんじゃない？」って言われるくらいずっと環境に馴染んでいましたから（笑）



応援団長はチームを支えた

――：石川さんにとって、現役生活の中で一番思い出に残っている試合、あるいは苦しかった試合はなんですか？

石川：一番の思い出は、やはり2005年日本リーグでしょ！初めて試合に勝って泣きましたね。みんなが一つになって「絶対に優勝したい！」という気持ちが強かった。誰か一人でも「まあいいや」なんて思っている選手がいるとピンとくるのですが、あの日は誰もが勝ちたい一心でしたね。逆に悔しかった試合は、先ほども話しましたが、1年目の社



HOME

ソリューション

事例紹介

サステナビリティ

株主・投資家情報

企業情報

採用情報

お問い合わせ

会人大会ですかね。決勝で先輩の藤本ホセマリ選手に負けたのですが、あの試合は明らかに温度差がありました。何が何でも勝つぞ！という藤本先輩の意気込みに対して、なんとなく試合に入ってしまった僕は、その時点でもう負けていましたね。

――：プレー以外で何か思い出に残っているエピソードはありますか？海外遠征とか、チームメイトとの交流とか、なんでも結構です。

石川：そうですね、中西選手とは一緒に遠征に出かける機会が多く、いつも二人部屋に泊まって、いろいろ話をしました。シングルプレイヤーというのは自分をしっかり持って、意見を主張するタイプが多いのですが、中西選手にもそういった面があって、たくさん刺激を受けましたね。あと、モンゴルでバドミントンを指導していた知人に頼まれて手伝いに行ったことがあるのですが、これも面白かった。見ず知らずのテントを訪問したり、高校の日本語の授業でギターの弾き語りを披露したり…。モンゴルは大会でも来たことがあり、一番思い出深い国ですね。また、大学から10年の付き合いがあった福井の存在は大きく、ライバルでもあり、仲間でもありそのおかげで頑張れたと思います。冗談ばかり言い合っていましたけど（笑）

――：今後、日本ユニシスバドミントン部に期待すること、あるいは今年新たに加入した新人に対して何かアドバイスがあれば。

石川：僕は今年から給与人事グループの仕事を担当することになりましたが、現役である皆さんは、仕事として「バドミントンを一生懸命やっている」という強い意識を持ってがんばってもらいたい。練習や試合などで会社を早退する時も大きな声であいさつをして、堂々と出てきてほしい。あいさつ一つで職場とのコミュニケーションも円滑になると思っていますので。1年1年がまさに勝負、日本ユニシスは環境が凄いいので、それに甘えないことも大事ですね。

――：それでは最後に、石川さんにとって、やはりバドミントンとは？

石川：唯一、真剣に取り組めたこと。バドミントンがあったからこそ、道を反れずに真っ直ぐに生きてくることができたと思います。そして何よりも親に感謝したい。高校、大学時代と、バイトもせずにバドミントンに没頭できたのは親の援助があったからこそ。必ず試合を観に来てくれたことも嬉しかった。この場を借りて心から感謝の気持ちを伝えたいです。

――：ありがとうございました。そして長い間、お疲れ様でした。

思い出のアイテム：ギター

オフタイムはギターを爪弾きながらリラックスしていたという石川。昔の歌謡曲、フォークソングから洋楽までレパートリーは幅広く、自ら作詞・作曲も手掛ける。友人の結婚式や遠征先で弾き語りこと数知れず。



チームメイトからの言葉

福井：お疲れ様☆大学時代からの付き合いで10年間共に頑張ってきた仲間&ライバルがいなくなるのはマジ寂しいよ。俺が引退するまで待っていてほしかったあ。チームのムードメーカーとして盛り上げてくれた事が日本リーグ優勝に繋がっているとも思っています。感謝、感謝。'00 全日本社会人大会 シングルス 準優勝&'05 全日本社会人大会 シングルス ベスト8という戦績はホントすばらしいと思うよ。次の職場でも明るいハイテンションの自分を忘れず頑張ってください！！

坂本：6年間お疲れ様でした。とてもユーモアにある石川さんの周りにはいつも笑いがあり、明るい雰囲気を作ってくれました。会社の仕事もいろいろ教えてくれて、大変感謝しています。今までありがとうございました。これからも宜しくお願いします。

仲尾：石川さんがいなくなるとユニシスは大きな戦力ダウンです（応援）。あの応援があつてこそこの日本リーグ初制覇だったと思います。それと、なかなか実力が結果に表れず、試合後いつも落ち込んでいた石川さんが最後の年で納得のいくプレーができたように見えて嬉しかったです。これから一日中仕事ですけど頑張ってくださいね。お疲れ様でした。

中西：石川さんはユニシスのムードメーカーとして大きな存在だったと思います。苦しい練習でもシングルス陣の中心的存在として引っ張ってってもらって楽しく練習することができました。練習にいなくなると静かになって寂しいですが、これからはみんなでも盛り上げていきます。

池田：石川さんのスマッシュが見られなくなって本当に寂しい！！！！たまには遊びにきてくださいね！

早坂：選手生活お疲れ様でした。石川さんとはチームの中で一番仲が良かったように思います。業務は大変だと思いますが、持ち前の明るさと親しみやすい性格でのりきって頑張ってください！今までありがとうございました。

廣部：お疲れ様でした。練習中トレーニングなど励ましあつてできたことが、すごく印象的でおかげで頑張れました。また常に雰囲気をよく楽しませてくれてありがとうございました。これからも頑張ってください。

小宮山*：石川さん、現役生活お疲れ様でした。石川さんとはなかなか練習をする機会がありませんでしたが、練習に行った時や日本リーグを見に行った時の石川さんを見てすごく楽しくてその場を楽しませてくれていて石川さんともっ



とものと接したかったなっていました。これからは会社の方や困った時などお世話になると思いますがその時はよろしくをお願いします。

岩脇*: 現役生活おつかれ様でした。ニュージーランドの遠征では楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。シングルス頑張りますので応援よろしくをお願いします。

斉藤*: 本当に天才。何をするにもまわりを笑わせて雰囲気盛り上げて常に中心的存在だったと思います。これからもその天才的な笑いのセンスを駆使して頑張っていくってください。

(*: 2006年4月 日本ユニシス入社予定者)

(2006年2月22日掲載)

- [山田英孝インタビュー>](#)
- [中村憲尚インタビュー>](#)

feature backnumber

< [feature vol.11](#)

- [チームについて](#)
- [選手・スタッフ紹介](#)
- [試合結果](#)
- [ニュース](#)
- [ルール解説](#)
- [LINK](#)
- [お問い合わせ](#)

企業情報

BIPROGYについて

[トップメッセージ](#)

[会社概要](#)

[Vision2030・経営方針 \(2021~2023\)](#)

[コーポレートブランド](#)

[グループ会社](#)

[拠点所在地](#)

[組織図](#)

[役員一覧](#)

[企業理念](#)

[企業行動憲章](#)

[調達・購買に関する指針等について](#)

[BIPROGYグループの歴史](#)

[ニュースリリース](#)

[株主・投資家情報](#)

[採用情報](#)

BIPROGYの企業活動

[サステナビリティ](#)

[広告宣伝活動](#)

[セミナー/イベント](#)

[出版物](#)

[デジタルメディア BIPROGY TERASU](#)

[実業団バドミントン部](#)

[BIPROGYグループアンバサダー](#)

[東京デイズニーランド「エレクトロカルパレード・ドリームライツ」](#)

[東京デイズニーシー「フォートレス・エクスプロレーション」](#)

BIPROGYの研究活動

[BIPROGY総合技術研究所](#)

[Technology Foresight](#)

[技術論文BIPROGY技報](#)

[BIPROGY研究会](#)

[ご利用にあたって](#) > [個人情報保護について](#) > [情報セキュリティ基本方針](#) > [ソーシャルメディアポリシー](#) > [サイトマップ](#) >



Copyright © 2023 BIPROGY Inc. All rights reserved.